

# 福島の子どもたちとともに・世田谷の会 活動報告



# 今回ご報告させて頂くこと

---

1. 福島の子どもたちとともに・世田谷の会について
2. リフレッシュの概要
3. 冬休み懇談会の報告：福島の方々の声を中心に
4. 報告会等のイベント/今後の活動予定
5. 災害対策への提言

# 1. 福島の子どもたちと ともに・世田谷の会 について



# 福島の子どもたちとともに・世田谷の会について①

- **目的**:福島県などの放射線量が高い地域に住んでいて、外遊びが困難な子どもたち及び家族の支援を行うこと
- **結成**:2012年1月7日
- **組織体制**:21の市民団体が連携
- **主な活動内容**:
  - ①春/夏/冬休みに家族で世田谷に遊びに来てもらうリフレッシュ企画を実施(“ふくしまっ子リフレッシュin世田谷”)
  - ②福島の現状を知ってもらう講演会などを企画
  - ③いつでも遊びに来てもらえる場所を提供するためのセカンドホームプロジェクトを検討中

# 福島の子どもたちとともに・世田谷の会について②

## : チーム編成

■ **子どもたちのために何ができるか検討するチーム**  
子どもたちには短期のリフレッシュ以外に、何が必要なのかを中長期的に検討するためのチーム。  
メンバーが多忙で、まだリフレッシュの時の遊びを検討することが中心になっていて残念。



■ **チームふくしまの家**  
長期休暇に合わせた約1週間のリフレッシュだけでなく、本当はいつでも宿泊できる場所が必要です。  
その場所探し、どうすれば見つけられるか、見つけたらどうするかなどを専門に担当しているチーム。



■ **広報・イベントチーム**  
福島の現状を知ってもらうための講演会などを企画。  
世田谷の会の活動の広報に努める。

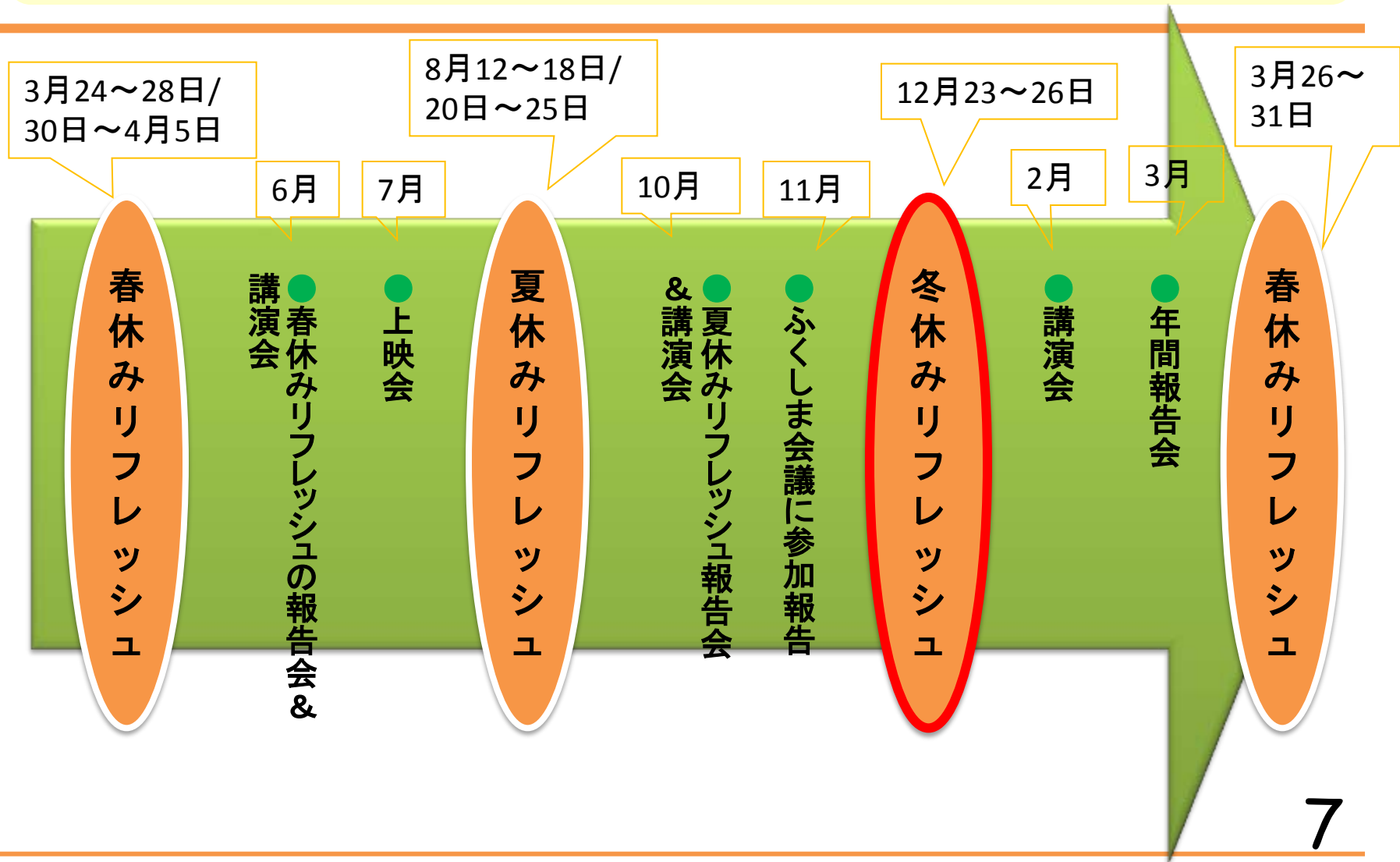
## 福島の子どもたちとともに・世田谷の会について③

### : 交流のある団体

- 「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク」
- 福島の子どもたちとともに・川崎の会、湘南の会、西湘の会
- 原発事故子ども・被災者支援法市民会議
- 福島大学原発災害支援フォーラム (FGF)
- 東京大学原発災害支援フォーラム (TGF)
- 受入全国協議会
- 地域連携ネットワーク(都内受け入れ団体中心)
- 福島大学 安全安心な教育環境をめざす保護者の会

# 福島の子どもたちとともに・世田谷の会について④

## :年間スケジュール



## 2. リフレッシュの概要

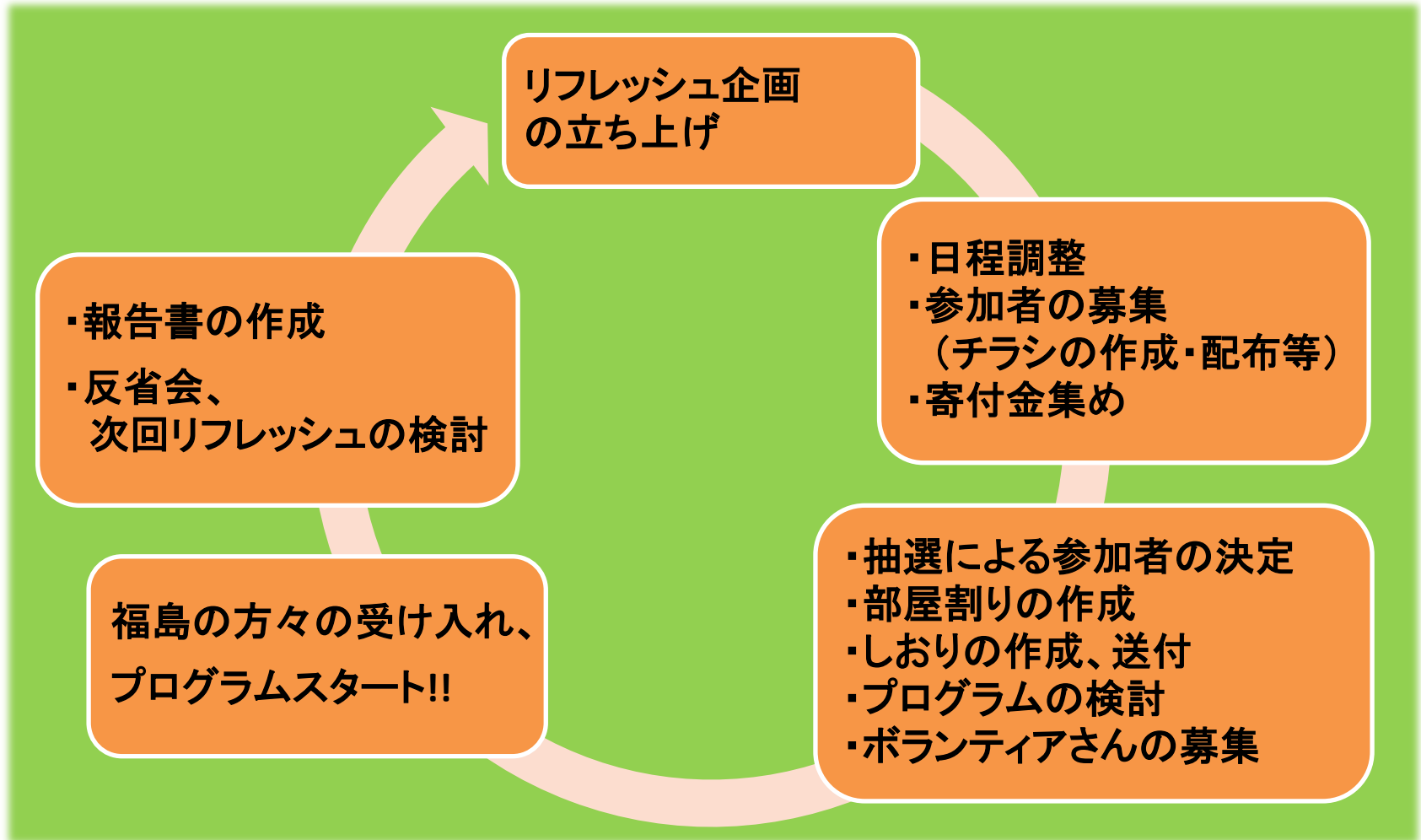
ふくしまっ子リフレッシュ!

福島のごどもたちとともに 世田谷の会





# リフレッシュの概要①:リフレッシュの流れ



## リフレッシュの概要②: 準備1

- 実行委員会でミーティングを重ね、日程の調整、ボランティアの手配、リフレッシュの告知など様々な準備を進めます



受け入れ準備として、  
横断幕を作成

## リフレッシュの概要③:準備2

- 毎回、チラシを作成  
→福島県内「市民測定所」  
を中心に配布  
→世田谷区内各所でも配布  
→(ご寄付お願いの為)  
幼稚園・小学校へも、  
7万枚以上を配布
- ネットでの告知  
(HP、ブログ、各ML)
- 口コミ



## リフレッシュの概要④：行政との連携について



- 世田谷区により、区立の宿泊所を無料で提供して頂く(大蔵第二運動場、老人休養ホームふじみ荘)
- 区立の幼稚園・保育園・小学校の全児童にチラシ配布
- ボランティア協議会から送迎バスを無料で提供して頂く
- 社会福祉協議会と一緒に募金集め



## リフレッシュの概要⑤: 福島の方々が世田谷に到着!!

- バスの乗車場所・・・福島、郡山
- 添乗員・・・スタッフ、看護師
- 車内ではオリエンテーション



宿泊施設の方々も、サンタの格好ではりきってお迎え★



# リフレッシュの概要：冬休み外遊びの様子



# リフレッシュの概要：冬休み区内観光の様子



## リフレッシュの概要： お茶会 & 読み聞かせ



夕食後のお茶会は、お母さん方とゆっくり話す貴重な時間です。子どもたちは読み聞かせに真剣に耳を傾けます！



## リフレッシュの概要： ボランティアさんの活躍1

リフレッシュでは多くのボランティアさんにご協力頂きました！

- ・外遊び時に子どもたちと一緒に遊びました
- ・お茶会・歓送迎会で、ジャグリングや似顔絵などの特技を活かして子どもたちを夢中にさせてくれました



## リフレッシュの概要： ボランティアさんの活躍2



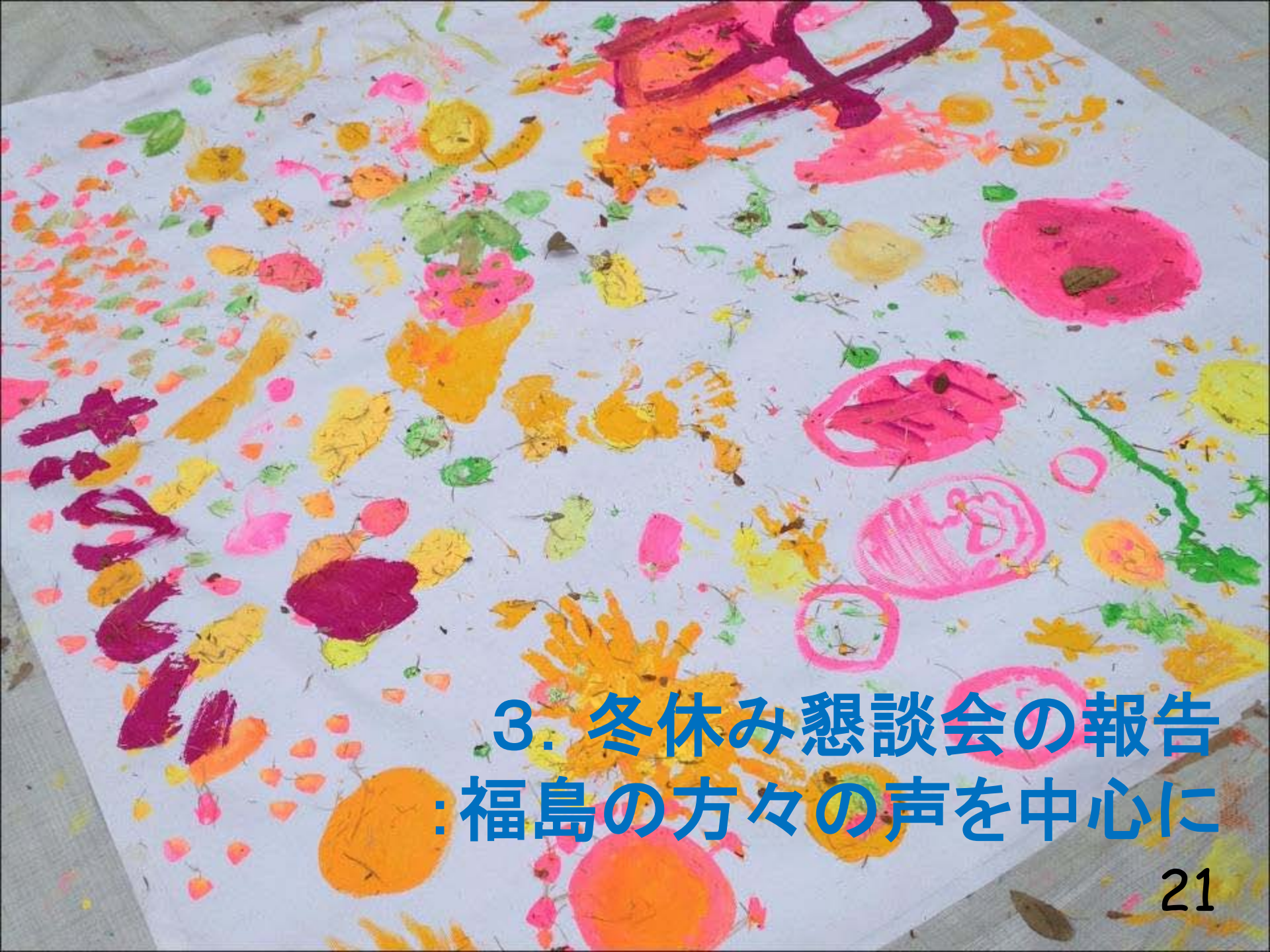
## リフレッシュの概要： お見送り



楽しい日があっという間に過ぎ、福島に帰る時が来ました。  
これからも共に考え、行動していきましょう！

## “ふくしまっ子リフレッシュin世田谷”の成果

- 世田谷でのびのびとリフレッシュしてもらい、福島の子どもたち・ご両親の心身の健康を促進。
- 福島の方々との交流を通じ、世田谷区民が福島の実情を知り、考える機会を実現。
- 参加者が、福島の問題が忘れられていないことを実感。自分たちの不安を共有することができて安心した。
- 福島の実情や課題について情報共有し、今後の支援への示唆を得た。



3. 冬休み懇談会の報告  
: 福島の方々の声を中心に

## 冬休み懇談会の報告：福島の方々の声から



- 12月25日の夜、春・夏の経験を踏まえて今後の活動について検討するために、参加者と実行委員会が語りあう懇談会を実施
- 6～8人のグループに分かれてワークショップを行い、福島の方々の率直な意見を伺いました

# 福島の方々の感想1

- **のびのびと過ごし、リフレッシュできた。**
- **貴重な経験をすることができた**
  - 外に出て、広い場所で元気に遊びまわることができ、子どもたちのストレス解消になった。
  - 子どもたちの笑顔を見ることができ、自分自身の笑顔を取り戻すこともできた。
  - 今回の保養でリフレッシュして、また日々の生活を頑張ることができる。
  - 家族で参加することができて良かった。

## 福島の方々の感想2

- **世田谷の人達と出会えて良かった！**
  - － 損得抜きでこれだけのことをしてくれる実行委員会にびっくりした。心温まる活動をしてもらい、感謝します。
  - － 福島のごことは少しずつ忘れられていくと思っていたが、皆さんの暖かい思いを感じて、忘れられていないと実感することができた。
  - － 世田谷で待っている人がいると思うと、子ども達も帰ってきたという安心感がある。
- **子どものことを改めて考える機会になった**
  - － 福島では放射線は大丈夫という感じになっている。ここに来て、改めて考える機会を得られた。



# ボランティアさんの声

- 福島の問題を実感した。喜んでもらえて嬉しい！
- 子どもたちの笑顔、元気な姿をたくさん見ることができて良かった。自分もリフレッシュすることができた。
  - 福島の人達の体験を生言葉で聞くことができ、その思いを感じることができた。福島のことが身近に感じられ、考えることができた。

## 福島の現状1

…現在の福島の生活がどうなっているのかを伺いました

### ・線量・除染体制

- 東京ではホットスポットと呼ばれる所が、福島では安全圏とされている。
- 0.3~0.4 $\mu$ svが普通で、0.7~1.0 $\mu$ svを超える所も多い。
- 除染しても、その土を校庭の仮置き場に置いているだけ。

### ・周囲との温度差

- 線量を心配しているのはおかしい、という雰囲気。
- 保養の話題も言い出しにくい。

### ・教育

- 放射線の安全性が強調された教育がされている。

### ・安心・安全に遊べる場所の不足

## 福島の現状2

・・・子どもたちのためにやっていること、注意していることを伺いました

### ● 線量への注意

- － 線量の低い安全な場所で遊ばせている。
- － 今回のような保養プランを利用し、できるだけ被ばく量を少なくしている。

### ● 検査

- － ホールボディカウンターの検査がやっと回ってきた。甲状腺の検査ができていないので、早くしてあげたい。甲

### ● 食材

- － 線量を測定している生協のものを食べている。
- － 牛乳など線量が高いとされているものを摂取しない。
- － 食材をネットで取り寄せている。

## 福島の現状3 小学生の男の子をもつお母さんのお話

この企画に参加して良かったのは、支えてくれる人がいると感じたことです。

保養には初めて参加しました。

自宅の裏山が崩れ、知り合いが亡くなりました。放射線も怖かったのですが、あっけない人の死から立ち直れない状況でした。1週間もすると仲間は避難していきましたが、家族や生活のことを考えると私は残らざるを得ませんでした。それからは引きこもり状態でした。

福島では同じ状況の人ばかりなので、自分が辛くてもそれを話すことができません。今回のように色々と話したのは初めてです。福島にいと、みんな忘れたふりをしているのが現状です。

# 福島の方々が今必要としている支援

…どんな支援を必要としているのかを伺いました

- 保養プランの継続
- 保養の機会の増加
  - － 絶対数が少なくて、長期休みには応募が殺到してしまう。
  - － 行政は除染ばかり力を入れているが、保養の支援もしてほしい。
- 保養プランの形態・要件
  - － 長期的な保養をしたい。
  - － 学校単位など団体で保養ができるようにしてほしい。
  - － 乳幼児でも参加できる保養を増やしてほしい。

# 世田谷でできること

…世田谷では今後どのような支援ができるか、みんなで考えました

## ● 周囲への発信・情報共有

- 保養の実績・ノウハウを全国に広める。各地で保養に取り組めるようにする。
- 福島のことを話題にし、忘れられないようにする。

## ● 保養プランの拡充

- もっと保養の機会を増やす、多様な機会が作れるように保養を行う団体数も増やす。
- 保養体制の整備：  
①財政的基盤の強化、②実行委員会の拡大、③宿泊できる施設の確保

## ● セカンドホームプロジェクト

- 空き家活用等で福島の家をつくり、自由に保養してもらおう。

# 福島でできること

…福島では今後どのような支援ができるか、みんなで考えました

- **行政への要望提出**
  - 地域の体育館をもっと開放してほしいと訴えていきたい。
- **周困への発信・情報共有**
  - 「保養」という言葉を発信して、みんなに知らせていきたい。
- **被ばく量を少なくする**
  - 今回のようなリフレッシュを利用し、なるべく被ばく量を少なくする。
- **参加者同士のネットワークづくり**
  - 福島で情報交換ができるネットワークづくりを行いたい。

## 冬休み懇談会の報告： 懇談会の感想

- 子どもたちのためのこれからについて真剣に話せてよかった。本音も聞けて良かった。
- 保育してもらえ、子どもが居ない所で素直な意見が言えてよかった。
- 同じ地域から来た方のいろいろな意見を聞けてとてもよかった。
- 同じように悩み、考えているみんなの思いを改めて知り、自分の気持ちをしっかり持てた。
- 世田谷の会の方々の「福島をどうにかしよう！」という気持ちが伝わってきてとても嬉しかったです。



# 4. 報告会等のイベント



## 報告会等のイベント①： 報告会 & 講演会



日時	内容
2012年 6月17日	福島からゲストを招き、春休みリフレッシュの報告 & 講演
7月23日	上映会。相馬高校演劇作品「今伝えたいこと(仮)」
9月23日	「希望の牧場・ふくしま」の吉沢正巳さんの講演、夏休みリフレッシュの報告
2013年 2月24日	「移動教室の試み」伊達市富野小 宍戸校長の講演



## 報告会等のイベント ②: ふくしま会議への参加

- 11月10・11日、福島大学にて
- 世田谷からも6名が参加
- リフレッシュの報告を実施



# 今後の活動予定

日時・場所	内容
3月20日	ボランティア説明会（春休みリフレッシュに向けて） 場所：経堂生活クラブ館3階
3月26～31日	春休みリフレッシュを実施。
8月	夏休みリフレッシュを実施。



# 5. 災害対策への提言

# 提言① 市民と行政の協働 をすすめる

当プロジェクトは、市民と行政が直接顔を合わせて協力する機会を具体的に生み出した。

(1) 災害時は、市民が抱える問題と行政による対応との間に齟齬が生じやすい。それを防止するために、平時から協力関係を構築しておくことが大切である。

(2) そこで今回の経験を一步進めて、行政には、福島からの「移動教室受け入れ」等様々な分野で、区民との協働を更に進めることを提案したい。

## 提言② 市民同士の連携を強める

当プロジェクトは、市民団体間に、従来無かった広い連携を生み出した。

また「居ながらボランティア」スタイルにより、子育て世代等の新しい層への広がりを生み出した。

(1) こうした市民の協力を進めることは、災害時の互助に役立つ。また、被災地支援に取り組むことで、災害時の対応力を養う契機ともなっている。

(2) このような具体的取り組みに、更に多くの市民・企業の参加を促し、市民間の協力を更に進める。

## 提言③ 原発事故への備え

福島の方々との交流を通じ、原発事故時の問題について当事者の立場から考える機会を得た。

東海村(120km)、浜岡(180km)等で重大事故が起こった場合、首都圏3千万人に被害が想定される。区民の避難計画が必要である。今後、廃炉が完了するまで半世紀は、日本中で放射能事故に備える必要がある。以下のような対策を提案する。

- (1)ヨウ素剤、マスク(N-100)、水の十分な確保
- (2)放射線測定器を各小学校に設置
- (3)事故時の他県への避難先、避難ルートの確保
- (4)西日本等からの避難民受け入れ施設の整備
- (5)避難訓練も兼ねた移動教室・林間学校を複数県で行う